

占 抱

発行 日本共産主義学生同盟
東京都委員会書記局

編集発行人 河西由紀

—— 目 次 ——

| | | |
|-------------------------|------|----|
| 発行にあたつて | 河西由紀 | /1 |
| 10・21~23国際反戦、明治百年祭、粉碎斗争 | | |
| を大学占拠で斗いぬけ！ | 都委員会 | /2 |
| —— 秋期斗争に向けて —— | | |
| バリケードの中から | | |
| 筑波研究学園都市への対決 | 教大支部 | /4 |
| 教育大斗争 | | |
| 古田打倒から学生権力樹立へ | 村沢一 | /5 |
| 日大斗争 | | |
| 現代 法政大ゲバルトの生み出したものは何か！ | | /6 |

発行にあたつて

日夜、ブルジョワジーによる大学への攻撃に対して断乎たる反撃と鋭い反戦の斗いの中から社会主義、共産主義をめざさんとしている全国の学友諸君！

一九六八年九月八日東京において、日本学生運動の大衆的・戦斗的前進を打ち続々斗いの中から構築された日本共産主義学生同盟東京都委員会から、全国の斗う学友諸君に熱烈なる斗う連帯のあいさつとともに、機関紙『占拠』を贈る。

フランス「五月革命」ソ連軍のチエコ侵入は、現代社会においてマルクス主義そのものの根底的再構築と社会主義、共産主義を人類の未来史を切り拓く道標として確立することを我々に要求している。また、あのフランスの「五月革命」は大学改革の斗いこそが、まさしく現代社会にあってブルジョワ支配構造に鋭く対決しうることを示した。あの大学占拠の斗いこそは、労働者の工場占拠とともに現代革命の斗いの道を提示したのだ。

全国各地でラジカルに斗いぬかれている、日大、教育大等の大学占拠の斗いは、まさしく七〇年安保体制粉碎の斗いと鋭く結合しうる。インター・カレッジな視点から全国的大学占拠の斗いを斗いぬく中から学生権力を樹立していかなければならぬ。

我々は、かかる占拠の持つ革命的意義を確認し、本誌を『占拠』と名付け、日本学生運動の新たな指針としたい。

一〇、一一、一〇、二三 国際反戦・明治百年祭粉碎斗争を

大学占拠で斗いぬけ！

秋期斗争へ向けて 東京都委員会

今秋の斗いは、七〇年斗争へ向けての基本的突破口として存在し、我々は明確に七〇年斗争との連関の中に把握しなければならない。執行する大学の重要な地位、ブルジョワ・ヘゲモニーの最大的の装置としての地位から教育、文化の全面的革新を中心とする大学構造の全面的革新（プロレタリア・ヘゲモニーへの奪還）の斗いをクラス・ゼミ・サークルに基礎をおき、直接民主主義および民主主義的委任の原理に貫ぬかれ、学生が自己の教育過程に生産的、自立的な主体として大学の管理、運営をも包摂するスチューデント・パワーを確立する斗いとして展開するといふきわめて七〇年安保体制粉碎の鋭い斗いとの有機的結合をかちとることである。

▲全都学園共斗を形成せよ！

九月斗争の基本的環は、夏休みという困難

的な斗いとして展開される時に、初めて新しい斗争の勝利的展望を導びき出しうることのフランスの「五月革命」が先駆的に提示したように学生による大学占拠からスチューデント・パワーの樹立こそがブルジョワ支配体制に構造的に鋭く対決しうるのである。

な時期をも断乎として斗いぬいてきた日大、教大、東大等の大学占拠斗争を、「仮処分の執行」「反スト派の抬頭」「本館封鎖対策委員会デッヂアゲ」等の政府・文部省・大学当局の弾圧の狂暴化をも断乎として大衆的斗争を構築する中で粉碎し、大学の学生による知的再生産過程の全面的自己管理を勝ちとり、スチューデント・パワーの実体を樹立することである。

我々は、この間鋭く斗いぬかれた学園斗争の現在的、革命的意義をはつきりと確認しなければならない。それは、①中大学費斗争がその斗いの中で鋭く提起したように、現在激発している学園斗争はまさしく現代資本主義下における矛盾の爆発として存在している。それ故に、個別学園斗争は個別斗争としてはその斗いの展望をせいぜい改良的意義としてしか提出しえない。まさに、激發する学園斗争は個別学園の枠を突破したインターラッジ

ジな視点から有機的に結合し、大学占拠体制の堅持からスチューデント・パワーを樹立するため、日大、教育大、東大等を中心とした全都学園斗争大学共斗を確立しなければならない。インターラッジな結合の中から、「大学ロックアウト法」の立法、私大協路線の強化等を押し進めてきた文部省に、予算編成に対する先制攻撃を斗いぬく中で文部省の廃止を要求して行く必要がある。

▲侵略加担 || 米タン輸送を

阻止せよ！▼

我々は、学園斗争の質的強化とともに、三月以降斗いぬかれた侵略拠点撃破の斗いを「ベトナムに平和を」という次元の問題としてではなく、まさしくベトナム革命の達成なくしては我々の勝利は存在しないという観点から斗いぬいてきた。それ故に、日帝の侵略加担粉碎は侵略拠点の撃破にはとどまらず、まさしく侵略加担構造粉碎 || 七〇年安保体制粉碎の斗いとして斗いぬかなければならな

い。

ベトナムでのアメリカの政治的・軍事的敗北の甚大に従つて後方基地としての日本の役割は今や決定的となつた。チエコ問題の激発とも連関しつつ、侵略加担の環は米軍軍資輸送として存在している。我々は、ベトナム反戦斗争を米軍軍資輸送阻止斗争として展開し、一〇月八日を昨年の一〇・八の質的止揚として新宿米タン輸送阻止斗争として斗いぬけ！

▲一〇・二一と二三連続ゼネストを

斗いぬけ！▼

一〇・二一と二三は、大学占拠斗争とベト

ナム反戦斗争の一大集約点であり、七〇年斗義百年として、すなわち「搾取と抑圧の百年」

争の基本的課題を内在化させており、我々はとして存在していることを大衆的に確認する大学占拠の中からの大衆的デモンストレーションをかちとつていかなければならぬ。すなわち、侵略構造粉碎の鋭い斗いである米タン斗争と大学占拠を軸とし、新たな大学の自主管理 || スチューデント・パワーの創出過程にある一連の学園斗争との有機的結合をして斗いぬくことである。また、フランス・アメリカ・イタリア等の先進国の大改革、反戦斗争の高揚、後進国人民の解放斗争の高揚の中で世界史的要求としてのベトナム勝利への世界プロレタリアートとのインターナショナルな連帯を勝ちとることである。かかる斗争は、七〇年安保のイデオロギー的補完物である明治百年祭粉碎、七〇年万博粉碎の斗いとの結合をかちとる中で安保体制粉碎の斗いとして展開されなければならない。ブルジョワジーは「建国記念日・明治百年祭・七〇年万博」という過程で、プロレタリア・アートへの近代主義的大國主義イデオロギーの侵透によつて七〇年安保の本質を隠蔽しようとしている。我々は、かかるブルジョワジーの七〇年安保への攻勢に対して、明治以来の百年間はまさしく資本主義百年、國家主

筑波研究学園都市への対決

教育大斗争——教育大支部

現在、東京教育大学では六月二五日以降、筑波移転阻止斗争の最終局面、即ち昨年の六月一〇日土地確保決定に続く更なる移転の実質化と既成事実化に対し、本館封鎖をも含む強固なバリケードストを八〇日間にわたって続行している。そして「長く苦しい夏」を大學側の就職あつ旋拒否、奨学金停止の攻撃を粉碎しつつ、休み明けの再度の全学ストの確立と、試験阻止へ力強く斗つてることをまず報告したい。

この筑波研究学園都市構想とは、六〇年以降の日本資本主義の開放経済体制への突入と、それに伴う国際競争の激化に対応を余儀なくされた、独占ブルジョアジーが自前の科学技術の確立を目指した研究教育体制の再編成の大においては、六三年以降もう六年間もこの問題が学内を揺さぶり続けてるのである。我々は、昨年も六・一〇の土地確保決定に對して一ヶ月のストライキ斗争を開いたが、つさえ、我々の斗争に対し、「本館封鎖対策その敗北とそこににおける限界性を①前段斗争

の欠落と②公的指導権力の未掌握に総括し、それを筑波斗争の最終局面へ向けて克服すべく、四月段階より斗争を準備した。そして五月には新寮獲得斗争を三度にわたる大衆団交要求斗争、六月には筑波への決定的なポイントとなる学長選の実力阻止斗争（民青、右翼の破廉恥な逆ビケにより阻止でさなかつたが、逆にそれにより民青執行部を駆逐）と、すぐれてわが共学同の目的意識性の貫徹した斗争を開き、学生大衆の前に大学共同体の幻想を破壊し、既存の大学への根底的な批判を形成しつつ、六・二〇の調査費計上を契機に圧倒的なストへ突入したのであつた。

現在、我々の八〇日間にわたるストライキ斗争に対して大学側は、我々の「調査費計上白紙撤回」「学長・評議会大衆団交」「土地確保決定白紙撤回」「M.P委（移転計画の小委員会）解散」の基本的な要求に対しても、誠実な回答をあたえようとしていない。まあ

さらされている諸学園斗争をこの大連帯統一大に於ける行動を勝ちとる中で、勝利していくではなかつてある。

態度を露骨に示しているわけで、我々の斗争は主体の状況も合わせ考えると、きわめて困難といえるであろう。しかし我々は、文学部から全学への斗争の外延化を計り再度の全学的に保障すべく全学斗争委員会を確立し、移転阻止の巨大な波を大学上層部ならびにスト破壊をたくらむ全ての権力にたたきつけていくつもりである。

更に我々は、この筑波移転斗争というものが、きわめてインター・カレッジな側面、即ち七〇年を前にして独占ブルジョアジーの大学支配の更なる強化とそれに伴う大学内の矛盾の激化、そこから東大、日大、東洋大等々の全国的な学園斗争の激化が見られるわけで、我々は教育大ナショナリズムに傾斜しがちなこの斗争の全社会的、階級的な位置を明確化すると同時に、諸学園斗争と真に連帶した斗争に押し進めるつもりである。全国の学友諸君！現在大学占拠斗争を開いている教育大、東大、日大、東洋大、慶應大等の統一行動を展開し、現在権力によつて個別擊破の危機に

古田打倒から学生権力樹立へ

——日大斗争——

村沢 一

(1) 日大斗争とは何であるのか
まず最初に銘記すべき事は、日本大学とそれをめぐる情況である。個別日本大学の特殊性は第一に封建性にある。右翼に象徴される

学内全一的支配は暴力によつて裏打ちされていた。人間の基本的権利としてある、表現の自由、集会の自由までをも圧殺し、自治の内容にかんしては單なる形式的なものにすぎなかつた。他大学の学友には想像もつかない程

のトリデとしてあつた。第二に現代社会の諸矛盾の集約されている学園の筆頭にあり、その後進性にある。つまり、悲劇のヒーローとして、ヒーローであるが故に情況に甘んじて

以上の情況から我々の決起した要因は二〇億円の使途不明金問題に端を発し、その本質的な反抗としてあつたが故に、素朴でラヂカルなものだ。

(2) 斗争経過とその総括

四月一五日、使途不明金問題が社会化し討論、抗議の集会やデモの過程で六月一一日右翼との乱斗、法三号館スト突入、文理、法2、共斗と理事会の折衝とその破棄、七月四日全学部全校舎から一五、〇〇〇名の結集を勝ちと、七月五日理工のスト権確立とスト突入までを一応、スト体制で長期斗争として斗う

組織過程として把握できる。理工における組起集会の爆発までを大衆的エネルギーの街頭化と運動方針は街頭における爆発的エネルギーとしてあつた。第三には教育、学問、研究

内容それ自身の形ガイ化としてある。自治の主体者たる学問、研究、教育の主体の不在化であり、徹底的な官僚的・一体支配体制である。科学の専門化、一たとほ化し、思想の專制的統一としてある。

閣化一発足当時の事情から一と斗争委員会へた事として結論できる。斗争委員会の砂上樓のクラス・サークル・ゼミからの結集が徹底的に不足した事が指摘できる。それは理工とで動員できなかつた事を批判する。主体の側に力不足である。

七月六日から八月二十五日までを更なる組織化と運動の夏休み貫徹期間として位置付けられる。理事側の一方的・独善的な契約破棄と分断策動、我々を無視した反撃に対して、大衆的次元での抗議集会やクラス討論会の普遍化の欠落があつた。

それはまさに國家権力自身が激しい弾圧を街頭において展開した事も以下同文である。八月二六日から九月三日までを夏休み明けを目前にしての活動家レベルでの組織化と運動の緊張した期間として把握できる。体制側からの分断策動の始まる時期、右翼の抬頭など、更に九月斗争へ向けての爆発的高揚へのプロセスとして。

九月四日の官憲導入から九月一二日の終決

的な全面展開の時として確認しなければならない。

四日未明の占拠学友全員逮捕以来はエネルギーは未曾有のものであり、その力はゲリラの個人の怒りに集約させられた。すなわち、機動隊導入以来、全共斗はセクト主義的に引き回しの具と化したのだ。エネルギーを

わめてラヂカルなブルジョワジーに対する構

造的対決の斗いなのである。

(むらさわ君は、日大理工斗争委書記局員)

大学占拠、権力の樹立、の方向へ組織化できなかつた。指導部の自らの指導放棄である。

これに対し理工斗争委は、独自の組織化と運動方向を開拓せねばならなかつた。にもかかわらず泊り込み部隊も九月四日までは最低五〇・六〇名結集したのが、二〇・三〇名に低下した。我々の斗いの理論的、実践的正当論理を付与できなかつた。

(3) 今後の方向性と勝利の展望

日大斗争は自然発生的なエネルギーの爆発の次元に止まつてはならない。古田体制打倒私大協路線粉碎、產学協同路線粉碎として、更に自主講座から我々自身の学問体系を樹立斗争勝利の展望は開拓される。まさしく、日大斗争は古田反動体制による私学日大の粉碎の中から学生生活の全面的自己管理の実体の構築から学生権力の樹立を勝ちとるというき

現代 法政大ゲバートの生み出したものは何か！

法政大におけるゲバートは、マンモス私学における自治会活動の実態を暴露した。数百人の双方のゲバート部隊とそれを見ている「一般学生」の図であり、まさに代行主義の、それどころか全く無縁のものとしてあつた。

一文、一社自治会室は民青の二部自治会と同じ建物にあるので民青に占拠された。この「私たちの団結の象徴である自治会室を奪われた」(民青)これらの自治会はこの思想にどのような態度をとつたのであろうか。法政社自一「自治会共斗」部隊において東大、教育大とならぶ「大单産」の一つであつた一が

名以下のゲバート部隊の結集しかえられないのは当然であつた。

我が同盟はこの斗争に約四〇名の支援部隊を二日間にわたつて送つたが、それに対してゲバート主義などという批判があるようだが、まさに法政大の学生運動の総括を我々とともに展開されることを期待する。

まさしく、我々の法政大への支援は法政大学におけるクラス・サークル・ゼミに基礎をおいた眞の意味での大衆的・戦斗的学生運動の再建をかちとる中で、日本学生運動の歴史に刻まれた法政大の輝ける伝統を民青、中核の諸君の運動への阻害をのりこえていくことであります。かかる意義において、法政大の学生運動を主体的に担つてきた斗う学友諸君(社自)とともに連帯していきたい。

(河)